

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290600069		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ三島		
所在地	静岡県三島市平田 47-2		
自己評価作成日	平成22年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.go-kouhyo-shi-zuoka.jp/kai_gosi/p/inf/onati.onPubli.c.do?JCD=2290600069&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット
所在地	静岡県静岡市葵区千代田三丁目11番43-6号
訪問調査日	平成22年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

”共に楽しみ・笑顔を大切に！”
 理念のもと、健康でその人らしい生活ができるように支援しています。
 雨の日以外は毎日の散歩は欠かさず行い、大声で笑う生活を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道1号線から下田街道と平行する140号線に入り間もないところの道路裏側に所在する当ホームは運営母体の名目は変わったものの数年の経験を持つ施設であります。未だ、田畑も見られるこの地域でも近所には大型医薬品スーパーやコンビニも有り利用者が思いを込めたリハビリを兼ねた買物にも便利です。ホーム内は広い運動広場を所有し静かな環境の中で二つのユニットの利用者が生活の場としています。ホーム内は笑が絶えない楽しい雰囲気になっています。認知症介護の諸資格を持つベテランホーム長のもと、組織的なホームの運用が機能しているため、スタッフ一同のフットワークも良く、ホーム内は理念通りの雰囲気に包まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念”共に楽しみ・笑顔を大切に！”のもとお客様が元気の源と捉えホーム内で簡潔することなく、地域・近所との交流ができる様に努めています。	時間が許す限りホーム長自ら現場に入り職員と一緒に視線で笑顔を絶やさず利用者に寄り添う姿勢が、ホーム内を明るくする要因にもなっていると見受けました。別室でホーム長とのヒアリング中でもリビングからは楽しそうな雰囲気が伝わります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、行事・作業にも積極的に参加し6年目に入り少しずつ日常的に交流出来る様になってきました。	町内会との付き合いも良好で、最近ではホーム内の広場で開催された「ほほえみ夏祭り」を、回覧板で告知していただき、多くの地域住民が子供連れで参加、利用者との交流が自然なカタチで行われている事を資料でも見る事が出来ます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだそこまでは出来ていないのが現状です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在二ヶ月に一回開催しています。今年のテーマは地域とのつながりかたです。	運営推進会議は奇数月に開催されています。市側の出席は無く、地域包括が毎回出席、民生委員、介護相談員も随時出席しています。議事録から濃い内容が討議されている事が判りますが町内会や多数の利用者家族の参加はこれからです。	「地域とのつながりかた」を今後のテーマにしていますので、町内会の方や多くの利用者家族の出席を期待するところです。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出来る限り必要に応じて取り組んでいます。	三島市のグループホーム9事業所で年に何回か行政出席のもとに連絡会を開き、諸情報を共有するように努めているようです。通常は、日常業務の流れの中で、市担当窓口への訪問や通信手段等によってよい関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の宣言し身体拘束しないケアを実践しています。	身体拘束をしないケアについてはマニュアルに基づき何度も研修の機会を作っていますが、ホーム長自ら現場にてOJTを通じてスタッフの指導も行っています。又ホーム会議の席上、特に新人スタッフ対象に繰り返し話題としてとり上げています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止を徹底する為、ホーム会議で研修の機会をもうけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を説明し活用している御家族がいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族会を開催し、十分ご説明をしご理解頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接伺うことが多いです。外部者という所までは出来ていません。	家族がホーム訪問の際、極力、利用者の想いや家族の意向を聞く機会をつくっているようで、その都度、反映させるよう努めていました。問題がある場合にはホーム会議で採り上げスタッフ一同で話し合う姿勢が確認出来ます。	他の社会資源との連携を蜜にして、尚一層の取り組みを期待いたします。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議内で意見交換の場を設けています。ホーム内で出来る事は反映しています。	ホーム会議で積極的な意見が出るので、意見吸収の場として大切にしていますが、ホーム長は、一歩前に出て、現場で、如何にしたらスタッフからの本音の話が引き出せるかに苦慮し、期待を寄せていることも理解できました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内の制度を使って給与水準アップに取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加出来る様取り組んでいます。現実なかなか難しいのが現状です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在そこまでの取り組みは出来ていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人からの聞き取りはもちろん、御家族からもお話を聞き安心・安全に生活出来る様に努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安・心配な事柄に対しては誠意を持って対応し、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活が安心・安全に出来る様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩と敬い共に支えあい生活して行く関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と御家族との絆を十分考慮し、出来る限り共に支えていく関係づくりをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り途切れる事のない様に努めています。	家族が許していただければ、以前、住んでいた家や利用者がいつも話してくれる想いのある所など、また墓参りにスタッフが同行し支援しているようです。ホーム長をはじめ、スタッフも、その事が利用者にとって大事な事であるとの理解をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に把握し常に気配り、支え合えるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、出来る限り相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族がお見えになり、ご本人とお話した事を、何気にお聞きしご本人も自由に意見の言える雰囲気作りに努めています。	家族の意向を、あらかじめ聞いているので、意思を伝える事が出来る利用者には出来る限り聞き手に廻って本人の意向に沿うよう努めていました。例えば、新聞雑誌、日用品を近所のコンビニへ買いに行くなどの支援もしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人の表情・言動・行動に十分注意し、色々な角度からコミュニケーションをとりスタッフ同士意見交換をし、サービスの経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々色々なポイントで確認し、一人ひとりの現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミニカンファ等で自由に意見・アイデア出ししてもらい現状に即した介護計画を作成する様に努めています。	常駐のケアマネが在籍しているので、ホーム長が施設内は勿論、外へも目を向ける事が出来、事業所全体が良いカタチで運営されています。介護計画やモニタリングもその流の中で回転しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を職員各自の視点・ありのままの情報を共有し、実践・ケアの改善に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない柔軟な対応で、臨機応変にサービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が現在持っている機能を十分発揮出来る様に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・御家族の希望を大切にし、主治医・ホームとの連携をとりながら行っています。	利用者の半数以上の主治医は施設の提携医でした。本人、家族の意向で従来からのかかりつけ医の方も居て、通院は家族の支援を要請していますが、当該利用者の生活(介護)記録などを日々情報提供するので、受診に役立っていると聞きます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	御家族・主治医に相談し対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院出来る様病院関係者・御家族との情報を共有しながら早期退院できるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でお話しし、主治医・御家族・ホームとの連携が大切なので情報を共有し取り組んでいます。	利用者の受け入れ時に、重度化や終末期も含め当該グループホームでの介護の内容を説明しています。利用者は、当ホームの家族でもあるので長く居ていただくと言う原則のもとに、主治医、利用者の家族も含めて、諸情報を共有して行動しようと言う意思がスタッフ一同に浸透しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員には救命救急講習に参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法、連絡体制は訓練・会議等では行っていますが、地域との協力体制はまだこれから取り組んで行かなければならない事です。	地域や関係機関で開催される訓練や会議には積極的に参加しています。また、建築構造からしても震災や水害避難にも耐えられるようです。災害備蓄も標準をクリアしています。	○昨今の事情から、家族に安心していただく意味でも、災害対策に関しては、夜間時をも含めての実状を説明する事が大切と考えます。○地域の社会資源との更なる連携を期待いたします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライドを損ねない言葉がけの対応に努めています。	本件については、スタッフ一同の基本的な介護に関する諸行動を見ても、徹底している事が確認出来ます。その行動の中からはホーム長とのヒアリングの中からの思いが伝わってくるものもありました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自己決定できるよう言葉がけしたり、雰囲気作りなどもしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の決まりや都合は作らないように努め、お客様のペースを大切にした支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができる様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき・米とぎ・食器洗い・食器拭きなど出来る方にはお手伝いしてもらいながら支援しています。	ホームが生活の場である事から、スタッフと一緒に仕事(料理、支度、片づけ等)することを基本に支援をしています。スタッフは食事する時も可能な限り、一緒に同じものを食し、利用者との味を確認合っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嫌いな物がある方には配慮し、野菜中心としたメニューで水分1日1500以上取れるよう工夫し、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに応じた口腔ケアの支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせトイレでの排泄支援を行っています。	スタッフが一人ひとりのサインを理解しているの、速やかな支援をする事に心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食べ物などを工夫し、散歩などにも積極的に行い個々に応じた対応に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日希望・タイミングに合わせて、個々に沿った支援をしています。	毎日の入浴を基本として、利用者の希望に合わせて支援をしています。夜間の入浴を希望する利用者にも対応出来るよう支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活サイクルに応じて気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的・用法・用量を理解し、症状の変化の確認に努め支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かした楽しみや、出来る事を見つけ気分転換の支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩には毎日全員が出かけるよう支援し、また個々に家族の協力を得て、外出できる様支援しています。	真夏の猛暑時や、雨の日以外は、外への散歩は欠かすことなく支援しています。ドライブなども本人の思いを尊重して、出来る限りの支援をしていました。家族のもとへの外泊も娘さん等の支援で実現されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に対しては入居時にご家族にお話をさせてもらい、ご家族が必要と判断した場合、必要に応じホームで管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に確認し、電話したり、手紙のやり取りができる様支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは常に清潔にし、季節感のあるものを取り入れるように努めています。	常に施設内での季節感を大切に空間づくりを目指し、季節毎に関連したイベントの実施、リビングや廊下の模様替えなど、キメ細かい配慮が感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中で出来る限り思い思いに過ごせるように気配り、工夫するように努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に御家族と相談し使い慣れたもの、好みの物を活かし居心地良く過ごせるよう工夫しています。	居室には、クローゼットが常備されているので、各部屋とも、思い思いの品々を持ち込んであるものの、よく整頓され、安心して居住生活ができる空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全・安心で且つ自立した生活が送れるよう工夫し、支援しています。		